

第4回衛星開発・実証小委員会  
議事要旨

1 日 時

令和3年3月12日（金）10:00～12:20

2 場 所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

3 出席者

(1) 委 員

中須賀座長、片岡座長代理、石田委員、白坂委員、鈴木委員

(2) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局 松尾事務局長、岡村審議官、吉田参事官、中里参事官  
文部科学省大臣官房 長野審議官、福井宇宙開発利用課長

(3) 関係省庁

内閣府宇宙開発戦略推進事務局

準天頂衛星システム戦略室長 上野 麻子

環境省地球環境局総務課

脱炭素化イノベーション研究調査室長 中島 恵理

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課長 福井 俊英

4 議事要旨（○：意見等）

関係省庁から「衛星開発・実証に関する取組状況について」、資料1～3に基づいて説明が行われた。質疑応答について、以下の意見があった。

<内閣府（準天頂衛星システム戦略室）>

○準天頂衛星は、安全保障の観点からは、米国 GPS との互換性や代替性を確保していくことが重要であり、抗たん性の強化等に取り組んでいく必要がある。

○測位分野も民間が投資する時代になってきており、今後の利用拡大に向けては、航空宇宙業界だけでなく、自動車等のユーザー産業の巻き込みが重要。また、官民の役割分担をしっかりと検討していく必要がある。

○他方で、利用が広がらないと民間投資に必要なスケールが出ないという状態になっている。こうした状況を打破するには、幅広いユーザーのコンセンサスに対応していくだけでなく、突出して強いニーズを持つユーザーを特定して、ドライバーとしていくことも重要。

<環境省>

○日本の環境観測はパリ協定やカーボンニュートラルの目標を達成していく上で、国際的に極めて重要な役割を果たせる力がある。また、今後、大きなビジネス需要も見込まれる。こうした中で、日本の環境観測データをカーボン・ニ

ユートラル戦略にどう使っていくか、産業競争力にどうつなげていくか、という大きな視点で戦略的に検討していく必要。

- 今後の温室効果ガス関連のデータの世界標準をとるために、何が必要なデータかを考え、スピード感を持って整備することが重要。
- そのためには、単機能化・小型化して機数を増やすこと、あるいは、衛星だけでなく、航空機からの観測データを活用することも含めて、必要なデータをどのようにスピード感を持って集められるかという視点で検討することが必要。
- 技術的課題である、センサーの軽量化については、衛星開発・実証 PF で、省庁連携で検討していくことも考えられる。

#### <文部科学省>

- 研究開発だけで終わらずに、いかに実装するかが重要。そのためには、衛星単体だけでなく、衛星システムとして、どんなミッションを達成するかを考えると、ユーザー視点でアジャイルに実証していく機会をつくっていくことが重要。
- 技術開発することが目的ではなく、最後に何につながるかを見失わないように意識を変えていく必要。
- 開発した技術を国が持ち続けるか、ユーザー省庁に渡していくのか、民間に渡していくのか、という出口戦略をプロジェクトごとに明確化していくことが重要。JAXA が中心となって、技術を大企業、ベンチャー企業に繋いでいくエコシステムを考えることが重要。
- 民間企業と言った場合に、メーカーだけでなくその先のユーザー、また国内だけでなく海外も含めて考える必要。